

# 土木事業



## 事業概要

土木事業では、道路、鉄道、河川、ダム、上・下水道、エネルギー施設などの社会インフラ整備、防災・減災に資する国土強靱化対策や、インフラ老朽化対策に関連する事業に取り組んでいます。

これからも、新技術の開発・導入を図り、人々の生活に欠かせない良質な社会資本の整備・形成に貢献していきます。

## 2019年度の主な完成工事(土木)



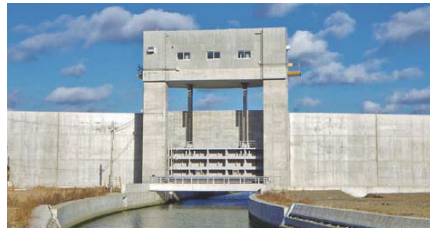
鉄道:おおさか東線野江地区踏盤新設他工事(大阪府大阪市)



道路:中部横断自動車道 石合トンネル工事(山梨県南巨摩郡)



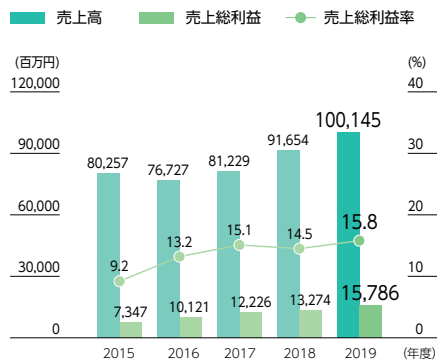
上・下水道:新川第6排水区新川16号幹線(雨水)(その1)公共下水道工事(京都府京都市)



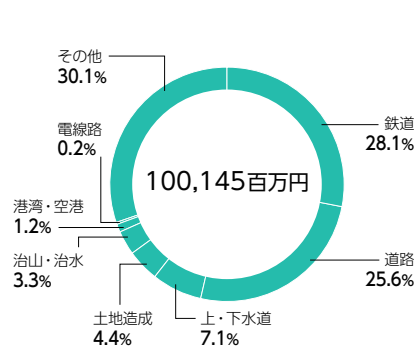
港湾・空港:二級河川長部川筋長部川水門土木工事(岩手県陸前高田市)

## 土木事業の業績(個別)

### 売上高・売上総利益(率)



### 売上工種別内訳(2019年度)



## 土木本部長メッセージ

前年度までに受注した豊富な手持ち工事が順調に進捗し、2019年度の土木事業の業績は、売上高、売上総利益共に、中期経営計画の最終年度に向けて順調に推移しています。

今後の事業環境については、民間建設投資において、新型コロナウイルス感染症の影響により先行き不透明な状況が続くものの、政府建設投資は、頻発化・激甚化する自然災害に備えた国土強靱化やインフラ長寿命化を踏まえた老朽化対策などの政策により底堅く推移すると予想しています。

このような事業環境の中、変化していく市場を見据え、社会のニーズに応える技術開発や、ICT・IoTの活用による生産性の向上、働き方改革などの取り組みを加速させていきます。



土木本部長 小寺 健司

## 土木事業の主な取り組み

土木事業では、「中期経営計画(2019~2021年度)」に基づき、以下の取り組みを強化していきます。

企業価値の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>i-Constructionの推進</li> <li>生産性向上に資する技術開発の推進</li> <li>レジリエントなインフラ整備に寄与する技術の開発と展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>品質確保の取り組みを通じた顧客満足度の向上</li> <li>環境に配慮した設計・施工の推進</li> </ul>
人的資源の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>若手社員の研修プログラムの充実</li> <li>ICTなどの知識・能力を有する多様な人材の活用</li> <li>現場業務の効率化推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業展開中の海外の国、地域において安定収益の確保に必要な人材の育成</li> </ul>

## TOPIC

### 研掃作業を機械化し、生産性向上 ~各種インフラ施設の補修・補強工事に、乾式天井用研掃装置を適用~

インフラ施設の補修・補強工事において、従来人力で行っていた天井コンクリート表面の研掃作業(目荒しや塗膜除去)を機械化することで、作業の効率化に加え、安全性の向上、品質の均一性確保、粉塵の飛散抑制などを図っています。

道路トンネルを対象に開発した装置を、適用する施設に合わせて改造することで、地下鉄駅構内の補修工事に狭隘な下水道管渠の耐震補強工事に適用しました。

本装置は、研掃ヘッドを天井面に押し付けながら高速回転させ、架台上を走行させて研掃作業を自動で行います。また、二重の飛散防止枠と研掃ディスク内に設けた吸引孔により、粉塵を吸引し飛散を防止します。

これまでは、平面状のコンクリート表面への適用に限られていましたが、曲面状のコンクリート表面に対応できる装置を開発したことで、より多様な施設への適用が可能となります。

持続可能なインフラ整備に寄与する技術として、多くのリニューアル工事への適用を積極的に提案していきます。

工事名: 関内駅ほか構築補修工事(神奈川県横浜市)  
工事名: 八王子水再生センター放流渠ほか耐震補強工事(東京都八王子市)

